

2012年エフネット選抜タイ遠征

高山 大輝

今回のタイ遠征を終えての個人的な感想を、まず一言で伝えると、「悔しい遠征」でした。個人としては、ノーゴール、相手のチームからも評価はしてもらえず、納得のいくプレーではなかった。チームとしては結果を見ての通り、1-6.0-3.3-3と、スコアを見れば一目瞭然。1分け2敗という、悔しい結果に終わった。

タイでの遠征を振り返る前にまず、国内で行われた練習会での印象から振り返る。長坂以外は、初めて一緒にプレーをする選手という状態からのスタートだったので、少ない時間だがコミュニケーションをとり、大きな約束事を確認し、2回目の練習会では練習試合も行った。この、練習会が自分にとって、このタイ遠征の最初のターニングポイントだったと、振り返ってみて感じる。その一番の要因としては、自分が思い描いていたカレッジ選抜とは様子が違うな、と感じたからである。1年生が4人、2年生が1人、3年生が2人、4年生が2人と、まず若いメンバーがそろったなと感じ、その中でも東海組の2人はフットサルの経験がほとんどなく、基本的なところから教える必要がある状態だったのには、正直、驚き、焦ってしまった。しかし、良かったのが、この遠征に集まったメンバー全員が意識が高く、積極的に吸収しようという姿勢だったこと、まわりの意見にしっかり耳を傾けてくれる点だった。この練習会を通して、自分や上級生は、自分のことだけでなく、チームのことを考えてプレーする意識がとて強くなったと思うし、とにかく、たくさんコミュニケーションをとって、プレーを擦り合わせようという意識が強まったように感じた。

このような不安と期待を抱えつつ、タイに出発し、飛行機の中でも戦術を確認したり、フットサルについて話したりと、時間を最大限に使ってタイ遠征への準備を進めた。

タイ遠征の1日目から振り返ってみると、まず初戦の相手はスラタニーFC。相手には元タイ代表や、アンダー世代のタイ代表、元Fのベッチーニョら、豪華なメンバーがそろっており、個人の能力は相手が大きく上回っており、自分達はとにかく、切り替えを意識して、チームで戦おうと声をかけて試合に臨みました。飛行機を降りて、渋滞もあり、食事を取れずに試合となってしまったので体のコンディションは悪かったですが、気持ちの入った試合の入り方ができました。ただ、展開としては相手がボールをほとんど持って、自分達はカウンターからチャンスを作る。という展開だったので、体力的には相当きつかったです。即席チームであり、サッカーの癖が抜けていないメンバーが多くいたため、簡単に裏を取られ、マークをずらされて、また走って、なんとか体に当てて防ぐ。という試合展開でした。その中で、用意していたセットプレーから、伊藤が抜け出し、長坂がファーに詰め先制に成功します。つらい時間が続いていたので、息を吹き返す得点でした。しかし、その後も相手に圧倒的にボールを支配され、マークがずれて、頑張る走る。という展開が続いていたために、体力的に厳しくなりだした、終盤に2得点を許し、前半を1-2で折り返します。ハーフタイムで守備について改めて、確認し、相手の4枚の間のスペー

スガルーズになることが多いので、そこを狙っていこうと確認し、後半に臨みます。

後半立ち上がり、サイドの突破を許し、自分のマークにファーに走られてしまい、簡単に失点してしまいました。この失点は完全に自分の責任であり、結果として、この3失点目を失ってから、踏ん張っていた気持ちが少しずつ切れてきてしまい、その後の3失点につながったと自分では感じています。本当にくだらぬ失点のしかたをしてしまい、チームの流れを断ち切ってしまったこのプレーは、非常に無駄でしたし、ゲームを終わらせてしまったな、と振り返っています。しかし、失点が増えていっても諦めることなく、チャレンジし、いくつかの大きなチャンスを作ることができましたし、徐々にチームが良い方向に進んでいることが実感できる練習試合でした。

この試合の反省として、チームとしては相手のプレスがそこまで強くなかったのに、焦ってボールを失う場面が多かったので、もっと落ち着かせて、間を使って高い位置で勢いのあるメンバーに勝負させたかったということ、守備ではマークの受け渡し、裏への対応、飛ばしのパスをしっかりと切ることを確認し、個人としては、もっと声を出して、守備からリズムを作って、安心して若いメンバーがプレーできる時間を長くすること。そして、3失点目のような自分のミス無くすことが必要だと感じました。正直、この1試合を通して、2日目の大会により不安が増えましたし、もっとメンバーと守り方や攻め方を共有しなければならぬと感じましたし、帰りの車でも、積極的にコミュニケーションをとり、改善をはかりました。

そして迎えた2日目。1試合目の相手はバンコクFC。若いメンバーが多く、直近のリーグカップで準優勝したほぼベストメンバーで来てくれました。試合の入り方としては、初日と同じで、切り替えを意識し、とにかく積極的にトライしようという声をかけ、試合に入りました。この試合が始まって自分はとてもびっくりしたことがあります。それは昨日までは、まったく機能していなかった守備が、かなり改善されていて、その大きな理由は1年生が見違えるほど成長していたことです。この試合に入る前の昼食の時間に金子さんの声かけで、ミーティングを行いました。このミーティングで誰がどのようにプレーしたいか、そのためにはどうすれば良いか、そして直してほしいところなど、活発に議論し、メンバーの持っているイメージを共有することができ、細かい修正ができ、とても有意義な時間だったし、試合にすごく活きたと、ゲームに入って感じました。試合は、前日と比べて相手の速いテンポもあり、切り替えの早い、目まぐるしくボールを奪い合う展開となります。スラタニーよりもバンコクのほうが1対1で仕掛けてくる相手が多く、シュートを打たれる本数も多くなります。しかし、自分達も守備が大幅に改善されたこともあり、大きなピンチを迎える場面が格段に減り、いいムードで試合を進めていけます。しかし、徐々に相手の勢いに押しこまれた中盤に、相手のピボ当てから振り向かれ、ディフェンスがゴレイロのブラインドとなった瞬間に決められ、先制されます。ただ、昨日のようなどうしようもない失点パターンではなく、個人の戦いで一瞬の隙を突かれた失点だったので、悲観する内容ではなかったと思う。その後相手のシンプルなパラや、裏へのパスから連続

失点してしまいましたが、自分達の時間も少しずつ作れるようになってきており、前半で0-3と差をつけられてしまいましたが、ポジティブな試合展開だったと感じました。

昨日よりも手ごたえをつかんだ雰囲気メンバーから、ポジティブな声がかかったハーフタイムを終えて細かい確認をして後半に入ります。後半はさらに内容が改善され、パスも少しずつ回るようになり、あわやという場面を多く作れるようになれました。特に個人的なプレーとして、右アラで受けて中にドリブルし、ジゴゴ抜けした味方にパスを通して、シュートに持って行けた場面は、自分がミーティングで要求した動きであり、自分の一番得意なプレーを出せたので、本当に気持ち良かったですし、ゴールにはなりませんでしたが、しっかりとコミュニケーションを取って、要求すればそれに応えてくれるメンバーが多く、試合中でしたが感動した場面でした。その後も連続シュートからあと一步までゴールに迫ったり、カウンターから何度もチャンスを作りましたが残念ながら無得点で、0-3で試合を終えます。正直、勝ちたかったので悔しい試合でした。後半のスコアは0-0でしたし、1点取れば、試合内容は大きく変わったと思う。ただ、チームの雰囲気は格段に良くなりましたし、内容も改善され、チームとして少しずつ手ごたえを感じられるようになってきました。

そして迎えた最終戦。相手は同じ大学生チームということで絶対に勝とう。と声をかけ試合に入りました。この試合、見ていてもやっけても、あまりやられる気がしませんでした。そこまでチームの状態は上がってきていて、ひとつのチームになった。と感じられました。試合もこちらがボールをもつ時間もかなりあり、相手の攻撃に対してもしっかりと体を寄せてピンチを防ぎました。そして前半、相手の5ファールから、第2PKを伊藤がしっかりと決め、先制。いい流れで前半を終えます。次の1点が勝負になる。とハーフタイムでしっかりと引き締め、後半に入る。徐々に相手もこちらの戦いに対応してきて、体力的に厳しくなりだした、試合中盤に崩されて失点してしまいます。その後も五分五分の展開が続き、終盤に差し掛かってきたところで、梅澤がカウンターから素晴らしいドリブルで抜け出し、勝ち越しに成功します。この時点で、自分達は5ファールたまってしまっており、あまり厳しくいけなくなってしまいます。そうした厳しい状況の中、自分が相手の足をかけてしまい、与えた第2PKを決められ、その後、残り1分で相手のピボ当てから振り向かれ、ゴールを許します。またしても、自分のミスから悪い流れをつくって逆転されてしまいます。絶対に自分の手で取り返そうと、積極的にプレーしていたのが最後に実を結び、相手のパスを前カットし、伊藤につなぎ、最後は梅澤が同点ゴールを押しこみました。そのまま、10秒ほどで試合は終わり3-3で自分達のタイ遠征は終わりました。

この遠征を振り返ると、まずチームとしては試合を重ねるごとに、結束が強まり、コミュニケーションを積極的に取ることで、内容もよくなり、ひとつのチームになれたな。と感じました。こいつなら、こういうパスだ、こいつは守備が苦手だからカバーしよう。と一人ひとりが考えられるようになったと感じますし、なにより、素晴らしいメンバーがそろったからこそ、結果だと思います。みんながうまくいかなくても、腐ることなく、話

し合い、意見に耳を傾け、それを実践してくれる。そうしたいい雰囲気をつくれるメンバーが揃っていたから、短い遠征で成長できたと思うし、良い経験ができたのではなく、自分達で良い経験にすることができたのだと思う。

そして個人としては、まず最高学年として、チームを引っ張り、ムードを作り、自分の持っている知識や経験を積極的に伝えることができたのは良かった。しかし、プレーでは相手の監督やスタッフに認めさせるプレーは出せなかったし、ゴールも決めていない。失点から悪い流れもつくってしまい、本当に悔しかった。守備に追われて、結果を出せなかった。という言い訳をするのは安易すぎるし、そうした中でも、他のメンバーは評価されている。個人の力不足を感じましたし、自分の足りないところに気付けた遠征でした。ただ、自分の良さである、ムードを作ったり、盛り上げたり、積極的に話をしたりという部分で貢献できたと思うし、すべてが悔しく、悪かったわけではない。素直に1年生の成長が嬉しかったし、それは意識の高いメンバーがそろって、真剣に勝ちにいき、真剣にトライしたからこそだと思う。本当に行って良かったと思う。フットサルについてこんなに、真剣に考え、チームのことをこんなに考えたのは、初めてかもしれない。そう思わせてくれるメンバーに恵まれて良かった。はじめはどうなることかと不安しかなかったが、自分達で素晴らしい遠征にできたと思う。この遠征にかかわってくれたスタッフの方や、現地の方たちには本当に感謝していますし、この遠征をサポートしてくれた家族にも本当に感謝しています。そして素晴らしいメンバーたちにもありがとうございます。3泊4日、いいチャレンジができました。ありがとうございました。